

## かわだ新書プロジェクトについて

「かわだ新書プロジェクト」は「かわだ新書」の制作、刊行を中心に、作品の流通システムまでを含めた総合的なプロデュースとして企画、運営されているプロジェクトです。

同プロジェクトは2001年に河田政樹、村田早苗、篠原誠司、加藤直子、藤田セージの5名で活動を開始し、翌2002年に「かわだ新書」第1弾として『アートする美術』（かわだ新書001）の刊行、日本全国35カ所の美術館、ギャラリー、書店等に立ち読みを基本とした配本を行いました。また、配本の関連企画として、愛読者カードを制作し、返信された中から抽選で5名の方に「かわだ新書特製しおり」がプレゼントされました。

2003年、それまでの活動を総括した「河田政樹によるかわだ新書プロジェクトの総括展 Documents-old/new-」（会場：Gallery ART SPACE）を開催し、会期中「河田政樹（美術作家・著者）+西村智弘（美術評論家・映像作家）+αによる三者面談」と題したトークショーが催されました。その後、同プロジェクトは上記の総括展を最後にその第1期を終え、2003年8月、第2期として活動を再開、「かわだ新書002」として『写真ノ書』を刊行しました。

## かわだ新書とは？

「かわだ新書」とは、「かわだ新書プロジェクト」より不定期に刊行される架空の新書／メディアであり、同時に「かわだ新書」は作家・河田政樹が所有するギャラリー、作品でもあります。また、「かわだ新書」は企画立ち上げ当初から、作品の流通まで含めたトータルなものとして位置づけられ制作されています。

例えば、ギャラリーでもある「かわだ新書」は書籍の流通にのせることによって、本来、流通するはずのないギャラリーという機能自体も流通のシステムにのせてしまうことが可能です。また、新書という形体に限定されてしまうとはいえ、その内であればその時々によって作家・河田政樹が考える行為をそこに反映させることができます。

そのような考えを中心に据えながら、2002年に「かわだ新書」第一弾として作家・河田政樹が自主発行していたテキスト集『ノート』の内容を基本におきながら書き下ろされた（一部、再録あり）『アートする美術』（かわだ新書001）を刊行し、2003年秋には写真を中心に構成した『写真ノ書』（かわだ新書002）を刊行しました。この2冊とも、富士ゼロックス株式会社 ART・BY・XEROXの協力を得、同社のコピー機によってプリントされ製本されています。

また、通常、付属品や広報物として制作される「新刊案内」「愛読者カード」「しおり」等も「かわだ新書」の刊行と同時に制作され、それらは付属品でありながらも「かわだ新書」と同様に作品として位置づけられ制作されています。

そして、それら付属品を含め「かわだ新書」は、手に取り読むこと、また「かわだ新書」が置いてある状況を見ることによって〈考え〉〈知る〉ということの媒介も担っています。それは「かわだ新書」が常にある批評性をもって制作・刊行されることでもあり、例えば、美術であれば美術そのものに対して批評的な視点をもって読者の前に届けられるものであるということでもあります。

